
メタル・ウォー

五飛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メタル・ウォー

【Nコード】

N8115H

【作者名】

五飛

【あらすじ】

突如異世界に着いてしまった堺伸二。彼を待ち受けていたものは、大陸どうしが戦争している世界だった！

プロローグ

？「遅刻だぁぁぁぁぁぁぁ！」

この少年の名前は 堺 伸二（さかい しんじ）。近くの高校に通う1年生だ。

この物語の主人公だ。

伸「燃えろ！俺の何かぁぁぁぁぁぁぁ！」

伸二が叫んだ瞬間、

キンコンカンコン

目の前にある高校からチャイムが鳴る。

伸「間に合わなかった・・・」

がっくりと肩を落とし、トボトボと校門に向かって歩き出した刹那、足元にあったマンホールが突然なくなり、伸二は真っ逆さまに下へと落ちて行った・・・。

伸「こんなことってあるのかよぉぉぉ・・・」

~~~~~

人物紹介☆

堺 伸二

年齡 16 歲

身長 180 cm

体重  
60 kg

好きな事(物) 甘いもの わいわい騒ぐ事

嫌いな事(物)辛いもの 一人でいる事

本作の主人公。10歳のときに両親を亡くす。甘いものが関わると目の色が変わる。中学の先生の勧めで色々な習い事をしていたため、身体能力は高い。

アリア・サイクス

年齡 16 歲

身長  
165  
cm

体重・・・死にたいんですか？

好きな事(物)辛いもの

嫌いな事(物) 友達をバカにする人 甘いもの

国立リンド軍事高等学校の1年生。

~~~~~

異世界へ……

伸「……どこだこころ？」

伸二はそう言うのも無理はない、マンホールから落ちたと思ったら見た事もない植物が生い茂っている森に居るのだから・・・。

伸「とりあえず歩いてみるか・・・」

伸二はそう言いながら森の中へ足を踏み入れた。

2時間後
・
・
・
○

伸「疲れた」

伸二が今いる場所は、湖みたいなところだった。

伸「携帯もつながらないし……どうしようかな」

と悩んでいると、突然

ヒューン・・・ドォーリン

と大きな爆発音が轟いた。

伸「な、何だ？」

いきなりの爆発音にビクリして腰を抜かしてしまった伸二。

するとそこに、

？「キャア！」

木の根っこに躓いて転んでしまった女の子がいた。

？「ううゝ・・・痛いですうゝ」

膝を擦り剥いてしまったらしい。そんな子に伸二が、

伸「あ、あの」

大丈夫ですか？と言おうとする前に

？「敵！？」

とこちらを向き、映画などでよく見るマシンガンの照準をこちらに
合わせてきた。

伸「うわぁ！ち、違うよ！俺は敵なんかじゃ・・・」

？「では証拠を見せなさい！」

伸「証拠？」

当然のことながら伸二が証拠なんか持っているはずがない。

？「早く見せなさい！・・・もしかして時間稼ぎですか！？」

伸（ヤバい！！）どんどん事態が悪くなってる！ここは何とか俺が敵

じゃないって証明しないと！)

とっさに出た言葉が

伸「じ、実は俺この近くで住んでて湖に水を汲みに来てたんだ！」

伸（よし・・・これなら）

自分のついたウソに自信がある伸二だったが・・・

？「変ですねえ・・・この近くにある村は2ヶ月前に全員避難させ
たはずなんですが・・・」

伸（やっちゃったあああああああ！もう無理だ・・・死ぬ・・・
）

と諦めかけていたが、しかし

？「まあいいでしょう。とにかくあなたには私と一緒に来てもらい
ます」

と言いながら伸二をマシンガンの照準から外した。

伸「ああ・・・わかった」（た、助かった・・・）

？「一応名前は教えます。私はアリア・サイクス。 国立リン
ド軍事高等学校の1年生です」

伸「えっじゃあサイクスさん16歳？」

アリ「はい、そうですよ。 あ、後呼び方はアリアで結構ですよ」

伸「わかったアリア。俺の名前は堺 伸二だ、よろしくな」

アリ「シンジですか・・・何か変わった名前ですね」

伸（何かムカつく・・・でもアリアの名前と軍事関係の学校ってことはここは異世界みたいだな）

伸二はここが異世界とようやくわかったみたいである。

アリ「それでは行きますか。私の前に来てください。まだ信じた訳ではないので」

伸「わかったよ」（とにかくここはアリアの言うことに従っておくか）

こうして伸二はアリアと一緒に学校のキャンプへ行くことになったのだった・・・。

戦場へ

アリ「ほら、速く歩いてください。もう少しでつきますから」

伸「そんなこと言ったて、もう4時間ぐらい歩いてるじゃん。いい加減疲れたぜ」

伸二が愚痴をこぼしながら森の中をどんどん進んでいく。

アリ「困りましたね・・・あっほら見えてきましたよ！」

アリアがそう言いながら指をさしているほうに目をやると、そこには迷彩柄でカモフラージュされているキャンプ地帯があった。

アリ「さあ、行きましょう。まずは隊長に報告しないと」

と言いながらキャンプに入っていくアリアに付いていく伸二。

そして少し歩くと他のテントより大きいテントの前で止まり、

アリ「アリア・サイクス！入ります！」

？「はい、どうぞ」

中から男性の声が聞こえる。

そうして中に入ると、20代後半の少し細めの男性が座っていた。

アリ「レイ司令偵察任務終わりました。」

レイ司令と呼ばれた男性は、

レイ「ご苦労様でした。．．．ところで後ろにいる子はどなたかな？」

と伸二の存在に気づいたようだ。

伸「あっ俺hアリ」この男は堺 伸二という名で、湖の近くで発見・保護しました。伸二はこの付近の村で住んでいるらしいのですが・・」

レイ「シンジ．．．？君もしかして．．．」

と言葉をつなごうとした刹那

隊員「司令！」

と息も絶え絶えで入ってきたのは同じ年くらいの少年だった。

レイ「ダイ君！どうしたんですか！？」

ダイと呼ばれた隊員は慌てながらも、

ダイ「大変です司令！敵部隊がキャンプ前に出現！伏兵です！」

レイ「そうですか．．．伸二君、私と一緒に来なさい。アリア君はダイ君と一緒に敵部隊の掃討にあたってください。」

アリ・ダイ「了解！」

そういうとアリアとダイと呼ばれていた少年はテントからでて行ってしまった。

レイ「さあ伸二君、こっちです。」

と手を引かれて伸二はある場所へと連れて行かれた。その場所とは・

伸「ここは・・・武器庫!？」

そこには所狭しと銃器や近接武器などが置いてある武器庫だった。

レイ「さっ伸二君好きな武器を選びなさい。」

伸「え・・・」

伸二はしばらく呆然としていたが、我にかえりレイに詰め寄った

伸「何で武器を選ばなきゃいけないんですか!？俺にも戦えと?」

レイ「ええ。そうですが?何か不満な点でも?」

レイは当たり前だというように言った。

伸「不満?冗談じゃない!俺はここに来たばかりなんだぞ!急に戦えって言ったてそんなの無理に決まっているだろ!」

伸二は自分の言っていることに気づいてハッとした。

伸（やべっ!俺が異世界から来た事バレる!）

レイ「わかっていますよ。君が異世界から来たことは……。」

伸「え？」

伸二はレイの言葉に疑問を感じた。

伸「……何で知っているんですか？……俺が異世界から来た事……。」

レイ「そのことはこの戦いが終わってからに話すとしましょう。……さあ、武器を選んでください。」

伸「これが終わったら……話してくれるんですね？」

伸二は確認するように聞いた。

レイ「ええ。約束しましょう。伸二君、敵は人ではありません。安心してください。」

伸「じゃあ何なんですか？」

レイ「この世界に突如出現した、謎の生命体……我々人間は「人では無いもの」として《無人》（ナキビト）と呼んでいます。」

伸「《無人》……。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8115h/>

メタル・ウォー

2011年1月19日23時20分発行